

平成30年度教育方針

福岡県立宗像高等学校

「宗高から日本へ、そして世界へ発信」
－ 夢に向かって －

校訓

「質実剛健 自彊不息」

宗高の精神^{こころ} － たくましく 自ら励み 未来を拓く －

- ・ 文を尊び、体を練り、自ら精進する人材の育成
- ・ 自らの使命を自覚し、思いやりの心を持って社会に貢献する人物の育成
- ・ 郷土を深く愛し、文化と伝統を尊重する人物の育成

I 本年度の学校教育目標

コミュニケーション力と主体性に富み、チャレンジ精神を持って生き抜く宗高生の育成

II 本年度の学校運営方針

- 1 校訓「質実剛健・自彊不息」を体現するため、学習活動・学校行事等に主体的に参加する生徒の育成を全職員で実践する。
- 2 魅力ある中高一貫教育校の併設高校となるために、各分掌がそれぞれの課題に意欲的に取り組むとともに分掌等の連携を密に行う。

III 本年度の重点目標（具体的目標）

- 1 自彊不息の学習指導と授業改善
 - ① 大学入試改革に対応した学習指導の研究と実践に取り組む。
 - ② 学習指導をとおして主体的に思考し、チャレンジ精神を持って行動できる生徒を育成する。
- 2 生徒指導と進路指導の一体的指導
 - ① 「夢に向かって」の効果的活用により、学習時間のみならず、生活の振り返りによる自己指導力の育成。
 - ② 学校行事・部活動への主体的な取組をとおして、自己の在り方や将来の展望を考える生徒を育成する。

IV 各領域の具体的目標及び方策

1 教育推進領域

(1) 教育計画部

- ア 本校の教育目標を実現するための学習指導の在り方について研究する。
- ・ 新学習指導要領及び大学入試改革に対応した新しい教育課程について検討する。
 - ・ 学年と連絡を取り合って考査前の個別指導を充実させる。
- イ 他の分掌と連絡を密に取り、生徒の主体的な学習活動が充実するよう支援する。
- ・ 学年やキャリア教育部と連携し、生徒の探求活動が円滑に行われるよう支援する。
 - ・ 柔軟でバランスのとれた時間割の作成を目指すとともに、確実な運営を行う。

(2) 企画広報部

- ア 中学と高校が一体となった儀式・式典と、PTA活動運営の円滑化を図る。
- ・ 中高の学年や分掌と連携し、内進生と外進生の混在した諸行事の準備を行う。
 - ・ PTAとの連携により、中高が一体になった魅力ある活動を実施する。
- イ 宗像中学・高等学校の魅力を発信する効果的な広報活動を展開する。
- ・ 学校案内やホームページの内容を充実させ、宗像高校を目指す中学生（外進生）が増えるような広報活動を行う。

- ・ 中学訪問等の広報活動を強化するために、組織の改編や専属の担当者の配置等を働きかける。

2 生徒支援領域

(1) 生徒育成部

ア 規範意識が高く思いやりの心と高い志を持ち、目標達成に向けて挑戦する生徒を育成する。

- ・ 明るく元気な学校生活を目指し、生徒の規範意識を高揚させ自己責任能力と道徳心を育成する。
- ・ 交通安全指導により安全に対する実践力を備えた生徒を育成する。
- ・ 生徒会活動への積極的参加を促し、特色ある学校行事を成功させる。
- ・ 部活動を通してリーダーを育成するとともに目標に向けて挑戦し続ける生徒を育成する。

(2) 保健環境部

ア 各種委員会の活性化を図り、主体的に取り組む生徒を育成する。

- ・ 清掃方法のあり方を改善し、校内美化の意識向上に取り組む。
- ・ サイクルと節電に取り組む、エコスクールとしての意識を高める。

イ 中高一貫校として中高間の連携を深め、生徒の心身両面の情報共有に努める。

- ・ 生徒の傾向を把握し、検診結果等の引き継ぎをスムーズにする仕組みを構築する。
- ・ 中highで情報交換を密に行い、あらゆる情報を共有する。

3 進路支援領域

(1) 進路指導部

ア 進路目標を自ら考え、その達成に向けて主体的に行動できる生徒を育成する。

- ・ 生徒が進路目標を確立していくための支援をきめ細かく行う。
- ・ 生徒が学習時間のみならず、自らの生活の振り返りとして「夢に向かって」を活用するように促す。
- ・ 「探究活動」を通して、志高く具体的な進路目標を掲げさせる。
- ・ 大学入試の変革に柔軟に対応し、情報共有を図る。

(2) 図書部

ア 未知の分野にチャレンジする生徒を支援する「情報センター」としての機能を強化する。

- ・ 学年や教科と連携をとり、探究活動に必要な書籍を充実させる。
- ・ 図書館にある書籍・情報を積極的に紹介・案内する工夫をする。

イ 図書委員の主体的活動を生かし、生徒の自主的な読書活動を促す取り組みを行う。

- ・ 「秋の図書館祭」における取り組みを見直し、生徒の意欲を引き出すように工夫する。
- ・ 討議が深まる読書会に適したテキストを選定する。

4 学年領域

(1) 第1学年

- ア 基本的な生活習慣を確立させるとともに、独りを慎むことができる生徒を育成する。
- ・ 時間厳守、挨拶、身だしなみ、清掃に対する高い意識を持たせる。
 - ・ 部活動、生徒会活動、行事への積極的な参加を促し、リーダーの育成に努めるとともに、一人ひとりが自らの役割を果たすよう指導する。
- イ 主体的な学びを通して、チャレンジ精神を持って行動できる生徒を育成する。
- ・ 「夢に向かって」を活用して予習、授業、復習の習慣化を図り、週 1050 分の学習時間を確保させ、基礎学力を定着させる。
 - ・ 学ぶ楽しさに気づかせ、チャレンジ精神を持って努力する生徒を育成する。

(2) 第2学年

- ア 主体的に学び、興味関心に応じた適切な進路選択ができる力を育成する。
- ・ 「夢向」を活用し、1日150分以上の学習習慣と生活習慣の確立を図る。
 - ・ 総学で自ら課題を見つけ主体的に考え、適切な進路選択できる機会を設ける。
- イ 行事や部活動、生徒会活動に主体的に取り組みせ、リーダーシップを育成する。
- ・ 100周年を見据え一人ひとりが活躍できる場面を設定し、各行事の活性化やリーダーシップの育成を図る。
 - ・ クラスの枠を超えた活動を行い、コミュニケーション力や自己表現力を育成する。

(3) 第3学年

- ア 進路目標に向かって、たくましく自ら励み未来を拓く生徒を育成する。
- ・ 面談や「夢に向かって」等を有効に活用し、生徒が生活を振り返り、計画的で継続的な学習ができるよう指導する。
 - ・ 生徒が適切な進路選択ができるよう状況に応じた情報を提供し、自信を持って進路目標にチャレンジできる力を育成する。
- イ 最高学年として、自覚と誇りを持ち、あらゆる場面でリーダーシップを発揮できる生徒を育成する。
- ・ 文化祭や体育祭等の行事に主体的に取り組み、自分の持ち味を生かした役割を果たせるよう指導・助言を行う。
 - ・ 志を高く持ち、自律した態度で学生生活を送ることができるよう、あらゆる場面で生徒指導を行う。

(4) キャリア教育部

- ア 「学ぶ」ことの必要性・有用性の認識を向上させ、進路への関心・意欲の高揚を図る
- ・ プレゼン活動や論文作成活動を通して、自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解するコミュニケーション力を養う。
 - ・ 探究活動を通して、学ぶ目的を主体的に自覚し、社会との相互関係を保ちつつ自らの思考や感情を律し、今後の成長のために挑戦する姿勢を育成する。

イ 進路や職業などキャリアに関する学習を主体的に行い、「働く」ことの意義についての総合的な理解を促進する。

- ・ 探究活動を通して、多様な選択肢の中から、自己の意思と責任で当面の進路や学習を選択し、自分なりの職業観・勤労観を養う。
- ・ 探究活動を通して、自分を生かし役割を果たしていく適切な計画を立ててその課題を処理し、解決する姿勢を養う。

5 研修部

ア 中高で連携を取り、職員の資質向上につながる研修を実施する。

- ・ 中高で連携し、今日的な教育課題や授業改善等に関する研修を実施する。
- ・ 新大学入試に向け、他分掌と連携した研修の質的向上を図る。

イ 授業実践を通して、生徒が自ら課題を持ち、解決に向けて考える学習を充実させる。

- ・ 授業公開を通して授業力の向上を図り、主体的・対話的で深い学びを充実させる。
- ・ 研修の充実により、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりに向けてのスキルアップを図る。